

【 2023 年度 聖隷こども園・保育園 施設関係者評価 】

目的：浜松磐田地区の聖隷こども園・保育園が、お互いに客観的な視点で施設評価を行うことで、保育の資質向上を目指す。

【保育・教育理念】

聖隷の保育・教育理念が、日常の保育・教育に反映されているか。

- ・愛されて、愛する心を知り、お互いが大切な存在であることを知る。
- ・一人ひとりの違いに気付き、お互いを認め合いながら共に主体的に生活する。
- ・自己発揮できる環境の中で創造性を育てる。
- ・在園、地域の子育て家庭が、心豊かな環境で子育てできるように支援する。

それぞれのクラスで、子どもたちの年齢発達に合わせた活動をおこなっており、子どもの人数や子どもたちの様子に合わせて保育環境や活動の工夫をしている姿が見られた。どのクラスでも子どもたちが落ち着いて遊びを楽しむ姿が見られており、その姿から保育・教育理念が日常の保育に反映されているように感じる。

【人権尊重】

常に子どもの立場に立って、子どもの成長に最善となるような取り組み（関り・配慮）がなされているか。

子どもたちの興味関心に合わせた活動を計画していたり、子ども 1 人ひとりを信じて待ちながら関わる職員の姿が見られたりした。日々の保育や行事の進め方についても、“子どもの立場に立って”考えようとする職員の姿勢が感じられると思う。

【情報保護】

個人情報の保護は適切であるか。

入園の際に個人情報同意書の記入をしてもらうなど、個人情報の保護に努めていると感じる。

【苦情対応】

意見や苦情に対して、適切な対応ができているか。

保護者の方からのご意見をいただく際には、話し合う時間を取りながら保護者の方の気持ちを聞いているとのこと。必要に応じて園だよりにて発信をするなど、適切な対応をしている。

【保健・衛生】

園児の感染症等の情報提供、日常の健康観察や感染症の拡大防止等の取り組みがなされているか。

感染症の状況については、コドモンでその都度配信をしており、感染症罹患の人数に応じて紙面の掲示をするなどして、保護者の方への情報提供に努めていると感じる。

【安全】

救急・防犯・避難訓練等を通して、職員・園児の安全対応能力の向上を図るための取り組みがなされているか。

月に1回、危機管理委員会や安全衛生委員会の機会を持ち、事故の振り返りや職場巡視の報告をしたり、防犯・避難訓練を通して職員・園児共に意識を持てるようにしたりと取り組みを行っているとのことである。

【運営】

施設・設備の環境や管理等、運営は適切になされているか。

補修・修繕箇所について、職員から報告を受けたらすぐに現場を確認し、必要に応じてすぐに業者に連絡をして対応しているとのこと、管理・運営は適切であると感じる。

【環境美化】

園内外の清掃、物の整理整頓等、清潔で整然とした環境になっているか。また、季節感等が感じられる工夫がなされているか。

園内外も掃除が行き届いており、清潔感を感じる。刺繍で作られた聖句や讃美歌の掲示板に毎月の讃美歌が入っていたり、階段横には季節に合わせた壁面が飾られていたりして温かい雰囲気を感じられた。壁面についても1つ1つ細かく工夫されており、見ているだけで季節も感じられて楽しさがある。

【保育室】

室内の環境が子どもの発達に合わせて工夫され、玩具等適切に配置されているか。

それぞれのクラスで、子どもたちの年齢発達や興味に合わせた玩具が置かれていた。
室内環境も子どもの生活導線や発達に合わせて工夫がされていたと思う。

【保育内容】

全体的な計画に基づき、「歳児別保育目標」を意識した保育が展開されているか。

0 歳児

- ・ 神さまから預かったいのちとして大切にされる
- ・ 大人の愛情に包まれ、安心して過ごす
- ・ 意思がしっかり受け止められ、安心して自分らしさを出す

1 歳児

- ・ 保育者の祈りや讃美することを通して、神さまに出会う
- ・ 歩行と共に行動範囲をひろげ、興味・関心をひろげる
- ・ 神さまや周りの人たちに守られ、愛されていることを感じる
- ・ 全身を使ってあそび、言葉や身振りで自分の思いを表す

2 歳児

- ・ 神さまや周りの人たちに守られ、愛されていることを感じる
- ・ さまざまなことに興味・関心を持ち、保育者や友だちの中であそびを楽しむ。また、生活面の自立ができるようになる。

3 歳児

- ・ 保育者や友だちと一緒に讃美歌を歌うことやお祈りをすることを喜ぶ
- ・ あそびを通してイメージを広げ、社会や自然を理解し、友だちとあそぶことの楽しさやルールの大切さを味わう

4 歳児

- ・ 保育者や友だちと礼拝を守りながら日々を歩む
- ・ あそびを通して基本的な自然や物事の特徴を知り、友だちとのかかわりを通して葛藤を乗り越え、集団生活を豊かにする

5 歳児

- ・ 一人ひとりが神さまから違った良いものをいただいていることを認め合って過ごす

- ・共同的な活動を通して、子どもたちが自分の役割を知り、互いに認め合いながら、主体的に行事やクラスの運営を行う

それぞれのクラスで、年齢発達に合わせた保育活動を実施する姿が見られた。2歳児クラスでは、子どもたちが興味を持って繰り返し遊んでいるしっぽ取りを楽しんでおり、ルールを守って遊ぶ楽しさを味わう姿が見られた。「さまざまなことに興味・関心を持ち、保育者や友だちの中であそびを楽しむ。」という保育目標がおさえられており、長い時間じっくりと遊びを楽しむ姿が見られていた。

4歳児クラスでは、他園での保育実践を参考に、鬼の製作を子どもたちと一緒に相談しながら、その中で子どもたちの主体性を引き出せるように取り組み始めたとのことであった。製作を通して子どもの声を聞きながら進めていく中で、少しずつ担任も手ごたえを感じている様子であったため、保育目標である「あそびを通して基本的な自然や物事の特徴を知り、友だちとのかかわりを通して葛藤を乗り越え、集団生活を豊かにする」につながっていけると良いと思う。

【全体を通して】

各クラス、クラスの話し合いを通して子どものエピソードを共有したり、保育環境について考えあったりする中で、よりよい保育実践につなげていく職員の姿勢を感じることができた。そこがしっかりとしているからこそ、どのクラスでも子どもたちが落ち着いてじっくりと遊びを楽しみ、生活をする姿が見られたと思う。

保育についての語り合いの機会を十分に持ちながら、自身の大事にしていること・クラスとして大切にしていること・乳児クラスとして幼児クラスとして押さえたところなどを1人ひとり言語化していくことで、今作り上げてきている“富丘の保育”の確立につながっていくのではないかと感じました。

評価日 2024年 1月 30日

評価者 園名 聖隷こども園こうのとり豊田

役職 主幹保育教諭

氏名 杉田 愛都